

環境マネジメント活動－循環型社会の実現に向けて

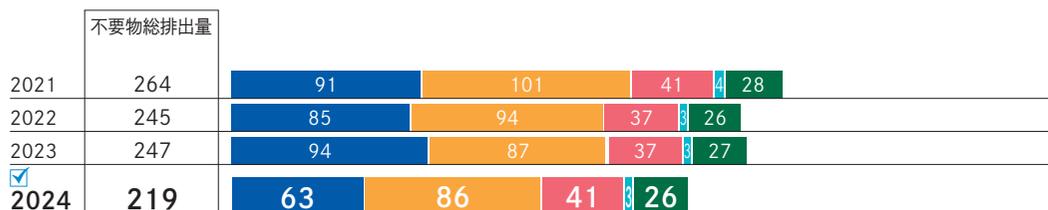
資源循環

大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済活動から、持続可能な形で資源を利用する「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行をめざして、DNPでは「DNPグループ環境ビジョン2050」にて循環型社会（資源の効率的利用）の実現を掲げています。その実現に向けて、「不要物総排出量および最終処分場利用率の最小化」に努め、2021年度からは、「資源循環率」を指標としてサーマルリカバリーを含めない形でリサイクルを推進し、資源の効率的利用を進めています。

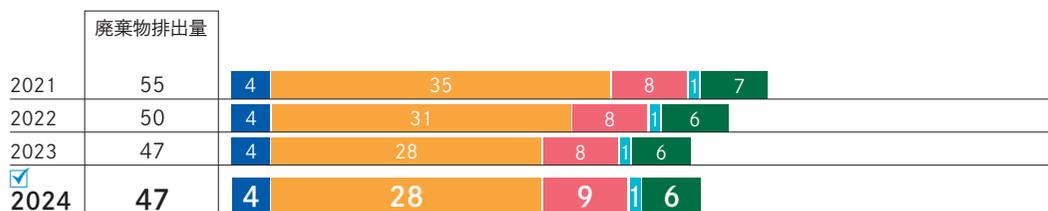
● 不要物総排出量の最小化

サイトから排出される工場不要物（廃棄物+有価物）の排出量を抑制するために生産工程において歩留まり改善活動を行い、必要最小限の材料での生産に努めています。

不要物総排出量の推移（単位：千トン）



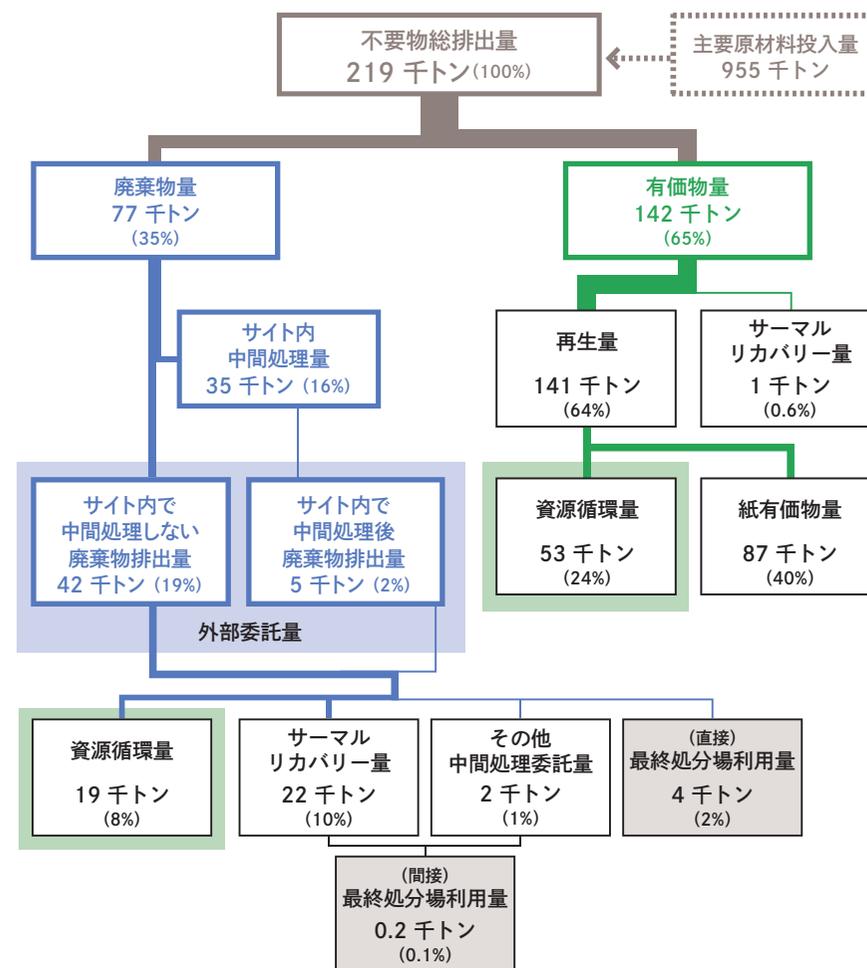
廃棄物排出量（外部委託量）の推移（単位：千トン）



左から ■ スマートコミュニケーション部門 ■ ライフ&ヘルスケア部門 ■ エレクトロニクス部門
■ その他部門 ■ 海外

※ 過去のデータは、部門編成変更に伴い修正しています。

● 不要物処理フロー



※ 四捨五入により一部合計が合わないことがあります。

環境マネジメント活動－循環型社会の実現に向けて

資源循環

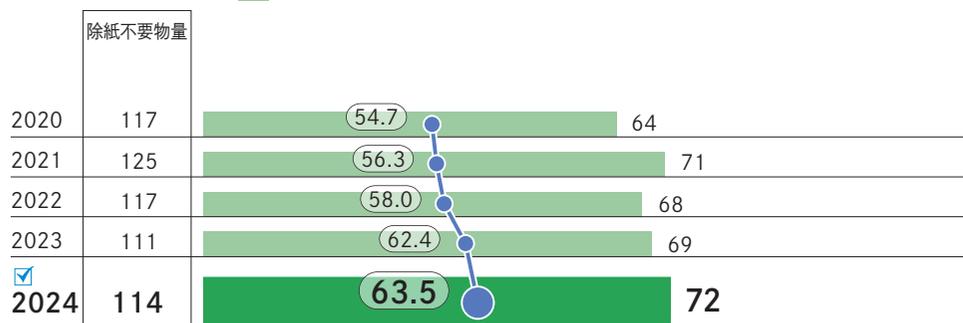
● 不要物(廃棄物+有価物)のリサイクル推進

サイトから排出される工場不要物(廃棄物+有価物)の「資源循環率」向上をめざし、さまざまな取り組みを推進しています。なかでも、廃棄物量の多いプラスチックに注力し、2030年度のプラスチック資源循環率60%を目標に取り組みを加速しています。具体的には、①製品構成の単一素材化(モノマテリアル化)の推進、②分別の細分化によるマテリアルリサイクル化の推進、③ケミカルリサイクル化に向けたパートナー企業との協働を強化し進めています。

※ 熱回収をともなう焼却や固形燃料化等はサーマルリカバリーとして扱い、リサイクルに含めていません。

不要物全体

資源循環量(単位:千トン) ■ 棒グラフ / 資源循環率(単位:%) ●-●- 折れ線グラフ



● 資源循環率 資源循環量 ÷ 除紙不要物量 × 100

● 資源循環量 除紙不要物量のうち、マテリアルリサイクルまたはケミカルリサイクルされた量

● 除紙不要物量 不要物(廃棄物+有価物)から紙有価物量および汚泥のサイト内中間処理量を除外した不要物量

● 最終処分場利用率の最小化(国内)

国内ではゼロエミッションを指標に、最終処分場利用率の最小化に努めています。ゼロエミッションとは、最終処分場利用量/不要物総排出量を0.5%以下にする取り組みのことで、ゼロエミッション達成を目標に活動しています。

最終処分場利用率(国内)の推移

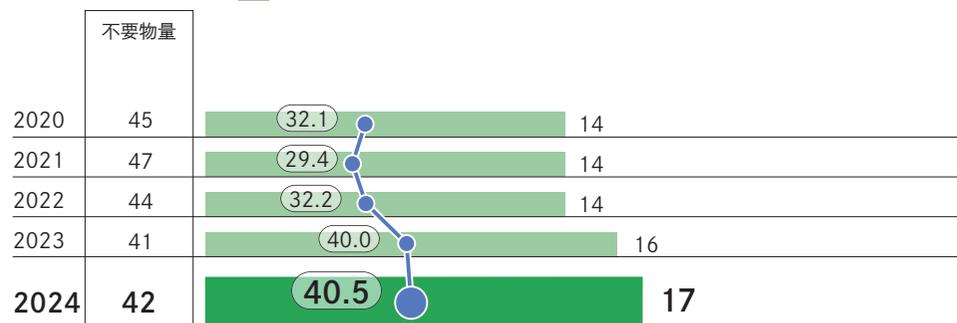
最終処分場利用量(単位:トン) ■ 棒グラフ / 最終処分場利用率(単位:%) ●-●- 折れ線グラフ



最終処分場利用率 最終処分場利用量(直接+間接) ÷ 不要物総排出量 × 100

プラスチック(国内)

資源循環量(単位:千トン) ■ 棒グラフ / 資源循環率(単位:%) ●-●- 折れ線グラフ



● 有害性あり/なしの不要物排出量及び内訳(国内)

不要物	排出量 (単位:千トン)	内訳(単位:千トン)		
		リサイクル量	最終処分場 利用量	その他
有害性あり (特別管理産業廃棄物)	16.7	16.3	0.0	0.5
有害性なし (特別管理産業廃棄物以外)	176.1	156.7	0.2	19.3
合計	192.9	172.9	0.2	19.7

リサイクル量 マテリアルリサイクル量、ケミカルリサイクル量、サーマルリサイクル量の合計

その他 リサイクル量および最終処分場利用量以外の排出量

※ 四捨五入により一部計算が合わないことがあります。